梅若研能会

令和六年度公演のご案内

写真：【若女（わかおんな）】

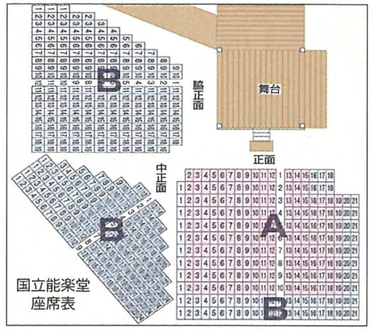
令和６年度年間通し券（1月・4月・6月・12月）

指定席Ａ	26,300 円	※学生指定席Ａ	11,100 円（要学生証）
指定席Ｂ	22,400 円	※学生指定席Ｂ	10,800 円（要学生証）

１月公演（国立能楽堂）入場料（全席指定）

指定席Ａ　7,000 円
指定席Ｂ　6,000 円
学生席 各席 3,000 円引き（要学生証）

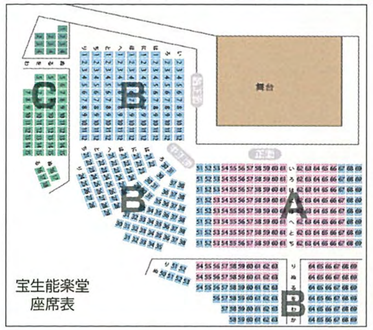
国立能楽堂 National Noh Theater
渋谷区千駄ヶ谷４-18-1
TEL 03-3423-1331



４月公演（宝生能楽堂）入場料（全席指定）

指定席Ａ　7,000 円
指定席Ｂ　6,000 円
指定席Ｃ　4,000 円
学生席 各席 3,000 円引き（要学生証）

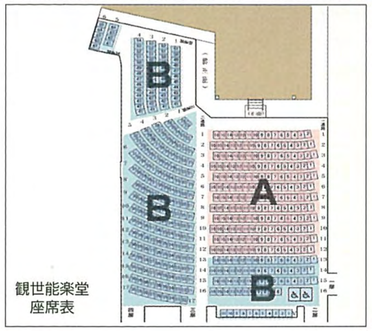
宝生能楽堂 Hosyo Noh Theater
東京都文京区本郷１丁目 5-9
TEL 03-3811-4843
最寄駅：三田線水道橋（出口 A1）徒歩１分



６・12 月公演（観世能楽堂）入場料（全席指定）

指定席Ａ　7,000 円
指定席Ｂ　6,000 円
学生席 各席 3,000 円引き（要学生証）

観世能楽堂 Kanze Noh Theater
中央区銀座６-10 GINZA SIX 地下3F
TEL 03-6274-6579



YouTube はじめました！チャンネル登録をお願いします！

フェイスブックはじめました！ 公演情報更新中！

令和六年も何卒よろしくお願い申し上げます。
皆様のご健勝をお祈り申し上げますと共に、今後とも
変わらぬお引き立てのほどお願い申し上げます。

梅若万三郎

お問い合わせ・お申し込み

公益財団法人 梅若研能会

〒151-0066渋谷区西原1-4-2　TEL 03(3466)3041
《メールアドレス》staff@umewakakennohkai.com
《ホームページ》http://www.umewakakennohkai.com

令和六年度公演のご案内

一月

二十日㊏ 午後一時開演
国立能楽堂

素謡　神歌　翁　梅若 紀長　千歳　梅若 志長

能　羽衣　シテ　中村 裕

仕舞　難波　梅若 紀佳
東北　梅若 紀長

狂言　三本柱　シテ　野村 万作

能　大會　シテ　古室 知也　ツレ　萩原 郁也

能 羽衣 彩色之伝（はごろもさいしきのでん）　春の朝、三保の松原に住む漁師・白龍（はくりょう）は、仲間と釣りに出た折に、松の枝に掛かった美しい衣を見つけます。家宝にするため持ち帰ろうとした白龍に、天女が現れて声をかけ、その羽衣を返して欲しいと頼みます。白龍は、はじめ聞き入れず返そうとしませんでしたが、「それがないと、天に帰れない。」と悲しむ天女の姿に心を動かされ、天女の舞を見せてもらう代わりに、衣を返すことにします。羽衣を着た天女は、月宮の様子を表す舞いなどを見せ、さらには奉の三保の松原を賛美しながら舞い続け、やがて彼方の富士山へ舞い上がり、霞にまぎれて消えていきました。

狂言 三本柱（さんぼんのはしら）　主人が太郎・次郎・三郎の三人の冠者たちに、家を新築するための柱を山まで取りに行かせる。ただし、条件があって、三本の柱を三人の者が二本ずつ持って帰らなければならない。山に着いた三人は、試行錯誤のうえ、主人の出した謎を解くことができ、賑やかに囃子物を謡いながら帰宅して……。

能 大會（だいえ）　比叡山の僧のもとを山伏姿の天狗が訪れ、命を助けられた礼に望みを叶えると言う。僧は釈迦が霊鷲山で説法したありさま（大會の様子）を拝みたいと頼む。山伏は引き受けるが、幻術なのだから信心を起こすなと念を押して消える。僧が目を開くと、そこは霊鷲山となり荘厳な大會の有様が展開されている。すると帝釈天が現れて幻術は悉く破れ、天狗は打ちのめされて谷の岩洞に消える。

六月

九日㊐ 午後一時開演
観世能楽堂

仕舞　氷室（キリ）　伊藤 嘉章
巻絹（クセ）　梅若 泰志
山姥（キリ）　中村 政裕

能　頼政　シテ　青木 一郎

狂言一番

能　杜若　シテ　八田 達弥

能 頼政（よりまさ）　宇治に来た僧に名所を教えた老人は平等院に案内し、源頼政が自害した扇の芝について語り、頼政の霊だと言って消える。夜半、法師の姿に甲冑を帯びた頼政の霊が現れ、平等院に布陣して橋板をはずしておいたが、平家方は軍勢を見事に指揮して馬で川を渡りきったものの頼みにした我が子の仲綱、兼綱兄弟も討たれ、敗北し、扇の芝で辞世の句の句を詠んで自害したという敗戦の様子を語って消えた。

平等院　扇の芝

能 杜若（かきつばた）　三河国八橋にやってきた僧が、咲き乱れる杜若に見惚れていると、里女が現れ、ここは杜若の名所として名高い八橋であるというと「伊勢物語」にある「かきつばた」の五文字を織り込んだ在原業平の杜若の歌「からころも、きつつなれにし、つましあれば、はるばるきぬる、たびをしぞおもふ」を教え、自分の庵へ招き入れる。やがて業平と高子后の装束に身を包んだ杜若の精の姿を現し、「伊勢物語」に語られた恋物語の数々を優美に舞う。

【百萬】

【白楽天】

【杜若】

【頼政】

【碇潜】

【田村】

【大會】

【羽衣】

四月

六日㊏ 午後一時開演
宝生能楽堂

仕舞　六浦（キリ）　加藤 眞悟
鼓之段　中村 裕
舎利（キリ）　長谷川晴彦
青木 健一

能　田村（替装束）　シテ　梅若 泰志

狂言一番

能　碇潜　シテ　梅若 志長

能 田村 替装束（たむらかえしょうぞく）　清水寺の地主の桜も花盛り。桜の木の下を清める童子は清水寺の来歴を語り、名所を教えるうち、音羽山に月が輝き桜花に映る景色は「春宵一国、値千金、花に清香、月に陰」という詩の通り。童子は田村堂に消える。やがて坂上田村麻呂の霊が現れる。天皇の勅命をうけて清水寺に詣でてから伊勢国鈴鹿に住む鬼神を討伐に向かい、当初は苦戦したが千手観音の助けを借りて、鬼神を残らず討ち果たしたのだった。前場では豊かに舞う童子の姿は、ほのぼのとした心地良さを、後場の軍語りは勇壮な合戦の有様を躍動的なリズムで展開する。

能 碇潜（いかりかづき）　旅の僧が長門国早鞆浦で渡し舟に乗り、船を操る老人に壇ノ浦の軍物語を所望すると、老人は能登守教経と奮戦と最後の有様を語って消える。僧が平家一門の跡を弔っていると、海中から大船が浮かび上がり二位尼、大納言局、平知盛の霊が現れる。二位尼は安徳天皇の入水の有様を語り、知盛は戦での勇姿を見せる（舞働）と碇を載いて海底に沈む。前場で教経の最後を、後場で幼い安徳天皇と二位尼の入水、そして知盛の最期と三つの主題を巧みに盛り込んだ構成となっている。

十二月

十九日㊍ 午後一時開演
観世能楽堂

能　白楽天　波夜陀麻之傳　シテ　加藤 眞悟
前ツレ　古室 知也

狂言一番

舞囃子　松風　シテ　遠田 修

能　百萬　シテ　青木 健一
子方　青木 響平

能 白楽天 波夜陀麻之傳（はくらくてんはやたまのでん）　白楽天が日本人の知恵を試すため来日し、漁師の老人に即興の詩を詠みかけるが、老人が即座に和歌に翻訳するので驚かされる。老人はさらに日本では生きといけるものはみな歌を詠むのだと教え、舞楽を見せようと言って消える。この老人は住吉明神で、やがて気高い老体の神姿を現し、荘厳な「真ノ序ノ舞」を見せると、神風を起こして白楽天を唐土に吹き戻してしまう。

能 百萬（ひゃくまん）　嵯峨野の清凉寺釈迦堂の大念仏に集まった大勢の善男善女の中に、大和の西大寺あたりで拾った幼い子を伴った男がやってくる。百万という物狂いが登場し、念仏の音頭を取りながら舞うが、その言葉の端々に子を思う気持ちが表われている。幼い子は百万が母だと気付く。群衆の中を我が子を探しまわる。そして、仏の功力で子と再会を果たす。

写真：梅若乃三郎　撮影：前島写真店